

## 2020年度 同志社大学大学院 司法研究科

### 後期日程入学試験問題 法律科目試験

#### (民法)

次の(設例)を読んで、問(1)、問(2)に解答しなさい。

##### (設例)

1. A社は、業績不振のため工場や店舗を閉鎖した土地を多数処分することにした。そこで、同社の不動産部門の課長であった従業員のBに、土地甲をはじめとする土地の売却を任せることにした。
2. Bは最近サイドビジネスではじめていた金融取引で失敗したため400万円あまりの借金があった。不動産取引に詳しいBは、順調に売却交渉を進めていたが、比較的小さな土地甲であれば、ただちに会社に発覚することはないのではないかと考え、土地甲を売却した代金を着服して自らの借金の支払に充てようと考えた。
3. Bは以前不動産取引をしたことのあるC社を訪問して、担当者Dに土地甲の売却を持ちかけた。土地甲の近隣で駐車場用地を探していたDは、悪くない話だと考えて、この取引を進めることにし、代金500万円で購入する方向でBとの話し合いを進めた。
4. Dは上司に相談し、上司も承諾したので、契約書を作成することにした。その際、代金の支払について、BはDに対して「移転登記の手続きをするのと引換えに代金全額の支払をお願いしますが、現金で用意していただけますか」と要望した。以前A社から土地を購入したことのあったDは、A社の銀行口座に振り込んだ記憶があったので、いまだ現金で支払をするのはおかしいと感じたが、深く考えずに了承した。
5. 支払の当日になり、Bは移転登記のための書類一式を持参し、この書類に特に問題はなかったため、Dは現金で用意した500万円をBに渡した。引換えにBは領収書をDに差し出したが、領収書は市販のものであるうえ、受取人欄には「不動産売却担当B」とだけ署名されており、A社の社名の記載がなかったため、不審に思ったが、Dは特に何も言わず領収書を受け取った。その後、土地甲はC社に引き渡され、移転登記も完了した。
6. Bは受け取った500万円で、ただちに自らの借金を弁済した。後日、A社は土地甲を売却したことは知らないとして、C社に対して、土地甲の移転登記の抹消と返還を求めた。

##### 問(1) (配点: 50点)

A社の請求に対して、C社が、有効に契約を締結して、既にBに対して500万円全額を払い渡したとの反論をした場合、これに対してA社はどのような反論をすることができるか検討しなさい。また、A社の請求は認められるか検討しなさい。

2020年度 同志社大学大学院 司法研究科

後期日程入学試験問題 法律科目試験

(民法)

---

問(2)(配点:50点)

- (ア) 民法715条が規定する使用者責任とはどのようなものか簡潔に説明しなさい。
- (イ) 問(1)において、仮にA社の請求が認められるとする場合、C社はA社の不法行為責任を追及して、損害賠償を請求することができるか検討しなさい。検討にあたっては、A社からどのような反論がおこなわれる可能性があるかも考慮すること。